

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
理事長	八木原 俊克
部長兼ICU/CCU部長 兼医療安全管理室副室長 兼心臓センター長	舩津 俊宏
医 長	鎌田 創吉 (6月退職)
医 長	横山 淳也 (10月入職)
副医長	阪下 裕司 (6月～9月)
非常勤医員	玉川 友樹 (4月入職)

—概要—

心臓血管外科では、冠動脈疾患、弁膜症、大動脈瘤、弁膜症合併不整脈、下肢閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤など、心臓大動脈を中心とした多様な病変に外科治療をおこなっている。近年、こうした循環器疾患の治療を要する患者は、高齢化、他疾患の合併などから、ますます病態は複雑化し、ハイリスクとなっている。これらの患者に対して、単に手術を行って生命予後を改善するばかりではなく、術後の活動性や生活の質を保つことも重要な課題である。われわれは、心臓センターの一翼として、循環器内科、看護師、薬剤師、リハビリテーション療法士、臨床工学士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種と連携し、急性期診療に取り組んでいる。また慢性期の日常臨床においては、かかりつけである実地医療の先生方(病診・病病連携)と密に連携し、退院後の全身状態の把握や管理に努めている。

当科では、従来の冠動脈バイパス手術、弁膜症手術、大動脈、末梢血管手術に加え、大動脈ステントグラフト治療も大阪大学心臓血管外科の支援のもと、高齢者中心に定着した。一方で、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル弁置換は、残念ながらまだ実施できていない状況にある。今後とも、経カテーテル大動脈弁置換や、一般病院では対応困難な重症心不全の患者に対する植込み型補助心臓等については、大阪大学関連施設への橋渡しをおこなっていく。

—実績—

2018年度に、りんくう手術室および救命手術室、りんくうICU、救命ICU、救命アンギオ室でおこなった全手術数は、前年度より11例増加し171例であった。開心術およびその他の内訳を以下に示す。

冠動脈疾患	36例※
弁膜症	36例※
胸部大動脈瘤(開胸手術)	6例※
胸部ステントグラフト内挿	5例
急性大動脈解離	6例
心筋症、その他開心術	4例
末梢血管手術	35例
腹部大動脈瘤(開腹手術)	11例
腹部ステントグラフト内挿	14例
その他手術室手術	31例

※重複あり

—今年度の成果と反省点—

今年度も従来の心臓血管外科手術に加え、救命救急センターへ搬送された、救急症例にも積極的に対応し、救命診療科医師と連携して手術をおこなってきた。

学術的には、当院からの全国学会での発表、論文発表がなく不満足な年度であったが、次年度には学会発表や論文の作成に尽力したい。

週1回開催の心臓センターカンファレンスを、手術症例中心の会であったものから、多職種が意見交換できる症例の検討会とし、さらに緊密な多職種連携を図るようにした。

—来年度への抱負—

地域の実地医療医の先生方より、毎週のように新患紹介をいただいている。今年度も引き続き、泉州地域の患者をもらさず当院で治療することを目指し、外来診療の強化、地域連携の強化から、手術症例数の増加を図りたい。

加えて、手術侵襲の低減、術後管理の工夫により、さらに手術成績を向上させ、当院でおこないえる治療選択のなかで一人でも多くの患者の救命、早期退院、早期社会復帰を目指していきたい。

